

2014年2月吉日

根津美術館

NEZUMUSEUM



2014. 4.19(土) - 5.18(日)

休館日: 月曜日、ただし4/29(火)-5/11(日)は無休

夜間開館 5/13(火)-5/18(日)は、午後7時まで開館



重要文化財 藤花図屏風(部分) 円山応挙筆 日本・江戸時代 安永5年(1776) 国宝 燕子花図屏風(部分) 尾形光琳筆 日本・江戸時代 18世紀 いずれも根津美術館蔵

国宝「かきつばたすびょうぶ燕子花図屏風」の季節が、今年もやってきます。このたびは、おがたこうりん尾形光琳の筆になる「燕子花図屏風」を、やはり当館所蔵の近世絵画を代表する作品のひとつ、ふじはなすびょうぶ円山応挙による重要文化財「藤花図屏風」とともに展示して、美を競わせる趣向です。

尾形光琳(1658~1716)は、京都の高級呉服商の家に生まれ、やがて絵画の道を志し、独自の装飾的な画風を打ち立てる一方、工芸デザイナーとしての才能にも恵まれました。18世紀のはじめ、光琳40歳代の作品「燕子花図屏風」は、衣裳文様にも通じる大胆なデザインを六曲一双屏風に展開し、上質な絵具をふんだんに用いて豊かな絵画世界をつくりだしています。

「藤花図屏風」は、「燕子花図屏風」のおよそ70年後に、同じ京都で、44歳の円山応挙(1733~95)が描いた作品です。無背景の金地に単一の植物モチーフを描く点では共通しながら、幹や枝を描く即興的な筆墨や花房をあらわす複雑な色づかいなど、「燕子花図屏風」とは異なる、瀟洒でかつ斬新な美しさをたたえています。対象の細やかな観察と高度な技法が融合した、応挙の写生画風の真骨頂を示す作品です。

本展は、この対照的な美を誇る2件の作品を中心に、琳派の金屏風の数々、さらには応挙にはじまる円山派、四条派の作品を加えた約20件の作品によって、近世絵画の美をお楽しみいただく展覧会です。

展示室 1・2

特別展 「燕子花図と藤花図」

— 光琳、応挙 美を競う —



国宝 燕子花図屏風 尾形光琳筆
日本・江戸時代 18世紀 根津美術館蔵



金地に青と緑のみであらわされた燕子花の群生が、鮮やかに目に映る。左右隻の構図のバランスも絶妙である。『伊勢物語』第9段、燕子花の名所であった三河国みかわのくにの八橋やっほしの情景。



重要文化財 藤花図屏風 円山応挙筆
日本・江戸時代 安永5年(1776) 根津美術館蔵



一筆で濃淡をあらわす「付立てつきた」による幹や枝、あるいは、青と紫、白の絵具を塗り重ねた、まるで印象派を思わせる花の描写など、写生画派の祖・円山応挙の技巧が冴えわたる作品。



四季草花図屏風「伊年」印
日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵



70種類以上の草花や野菜を描いた金屏風。俵屋宗達の工房たわらやそうたつで制作されたこうした華麗な草花図屏風は、「燕子花図屏風」や「藤花図屏風」にとって重要な先例となった。

重要美術品
花鳥図襖 (13面のうち)
山口素絢筆 (左)
松村景文筆 (右)
日本・江戸時代
文化10年(1813)
根津美術館蔵



円山派の山口素絢と、四条派の松村景文の合作になる襖絵。京都の町家を飾っていたのだろう。応挙にもとづく、写生に瀟洒な装飾美を加味した画風は、江戸後期の京都画壇を席卷した。

＜その他の展示予定作品（すべて根津美術館蔵）＞

・夏秋草図屏風 <small>なつあきくさず</small>	「伊年」印 <small>いねん</small>	江戸時代	17世紀	・竹狗児図 <small>たけにくじず</small>	長沢芦雪筆 <small>ながさわあしゆき</small>	江戸時代	18世紀
・夏草図屏風 <small>なつくさず</small>	尾形光琳筆 <small>おがたこうりん</small>	江戸時代	18世紀	・茅屋春景図 <small>ぼうおくしゅんけいず</small>	銅脈賛 <small>どうみゃくさん</small>	江戸時代	18-19世紀
・秋草図屏風 <small>あきくさず</small>	鶴沢探鯨筆 <small>つるさわたんげい</small>	江戸時代	18世紀	・帰漁図 <small>きりようず</small>	松村月溪(呉春)筆 <small>まつむらげつけい ごしゅん</small>	江戸時代	18-19世紀
・夏秋溪流図屏風 <small>なつあきけいりゅうず</small>	鈴木其一筆 <small>すずききいち</small>	江戸時代	19世紀	・南天双鳩図 <small>なんてんそうきゅうず</small>	呉春筆 <small>ごしゅん</small>	江戸時代	18-19世紀
・業平舞図 <small>なりひらまいず</small>	源琦筆 <small>げんき</small>	江戸時代	18世紀	・栗小窩図 <small>くりこゝず</small>	日野資枝・鳥丸光祖賛 <small>ひのすけき からすまるみつもと</small>	江戸時代	18-19世紀
・大原女図 <small>おほらめず</small>	山口素絢筆 <small>やまぐちそじゅん</small>	江戸時代	18-19世紀	・寒月飛鴨図 <small>かんげつひおろず</small>	松村景文筆 <small>まつむらけいぶん</small>	江戸時代	19世紀
・犬図 <small>いぬず</small>	山口素絢筆 <small>やまぐちそじゅん</small>	江戸時代	18-19世紀	・寒月飛鴨図 <small>かんげつひおろず</small>	松村景文筆 <small>まつむらけいぶん</small>	江戸時代	文化9年(1812)
	長沢芦雪筆 <small>ながさわあしゆき</small>	江戸時代	18世紀	・狐嫁入行列図 <small>きつねのよめいりぎやうれつず</small>	松村景文筆 <small>まつむらけいぶん</small>	江戸時代	19世紀

関連プログラム

講演会 1

「燕子花図と藤花図」

日時 4月26日(土) 午後2時-3時30分

講師 村重 寧氏 (早稲田大学 名誉教授)

講演会 2

「江戸園芸の燕子花と藤」

日時 5月10日(土) 午後2時-3時30分

講師 青木 宏一郎氏 (ランドスケープ・ガーデナー)

* 講演会会場はいずれも根津美術館講堂(定員130名)

(申し込み方法)

往復はがきに参加を希望される講演会(「講演会1」または「講演会2」と)、住所、氏名(返信面にも)、電話番号を明記の上、〒107-0062東京都港区南青山6-5-1 根津美術館「燕子花図と藤花図」展講演会係にお申込みください。

* 「講演会1」は2014年4月12日(土)、「講演会2」は4月26日(土)締切(当日消印有効)。

* 参加希望者1名につき1枚の往復はがきでお申し込みください。応募者多数の場合は抽選となります。

* 聴講は無料ですが、入館料をお支払いください。

スライドレクチャー

展示内容について、学芸員がスライドをもちいてお話しします。

日時 4月25日(金) 午後1時30分-午後2時

5月13日(火) 午後5時30分-午後6時(夜間開館期間中)

場所 根津美術館講堂(定員130名)

* 事前申し込みは不要。各回とも開始の15分前より会場(講堂)入口で受け付けます。

* 聴講は無料ですが、入館料をお支払いください。いずれも定員になり次第受付終了。

夜間開館特別イベント

仕舞「杜若」
かきつばた

日時 5月16日(金) 午後6時-6時30分

出演 観世鍔之丞師(能楽師)
かんぜつてつのおじょう

場所 根津美術館 1階ホール

* 着席観覧ご希望の方には整理券を午後5時より受付にてお配りいたします。立見でもご覧になれます。

* 事前申し込みは不要。観覧は無料ですが、入館料をお支払いください。



© 藤塚光政



夜間開館

本展覧会の最終週(5/13-18)は開館時間を夜7時まで延長します。初夏の宵の根津美術館でゆったりとした時間をお過ごしください。

夜間開館 特別イベント 仕舞「杜若」

5/16(金)午後6時-6時30分(夜間開館期間中)には、1階ホールにて、能楽師 観世鍔之丞師に仕舞「杜若」をご披露いただきます。

庭のカキツバタ

当館庭園の池では、毎年4月末~5月上旬にかけてカキツバタの群生が花を咲かせます。尾形光琳筆「燕子花図屏風」のご鑑賞とあわせて、初夏の庭の風情とカキツバタをお楽しみください。

同時開催

展示室 5

「秋草の壺と酒器」

—秋山コレクションの楽しみ方—

高麗・朝鮮の陶磁を中心とする秋山コレクションの魅力は、その酒器にみられる。珍しい青磁の盃やゆったりと酒を楽しむ唐津の盃など、楽しい酒器の数々をお楽しみください。

【秋山コレクションについて】

秋山順一氏 (1892-1975) は 1947 年に理化学材料株式会社 (現リカザイ株式会社) を設立した実業家で、号は疎松庵。新潟県出雲崎出身の父君が蒐集された同郷の良寛の書を通じ、安田靉彦画伯や歌人の川田順氏等と交流を深める中で、酒器の蒐集を始めたといわれています。1975 年に良寛の書と高麗・朝鮮の陶磁器等 87 件を当館にご寄贈頂きました。



青花秋草文壺
白磁
朝鮮・朝鮮時代 18 世紀
根津美術館蔵

わずかに青味を帯びた柔らかな釉調の白磁の三方に、淡い呉須で草花の図が描かれている。その空間の穏やかさが、この壺の魅力である。日本人が好んだ朝鮮の青花磁器である。



黒高麗徳利
黒高麗
朝鮮・朝鮮時代 16 世紀
根津美術館蔵

黒高麗とは素地に鉄泥を塗り、これに青磁釉をかけて焼成したものである。このように釉に光沢が見られるものは少ない。秋山氏は一合五勺の酒が入るこの徳利を特に好んだようである。

展示室 6

「初夏の茶の湯」

立夏を過ぎると、前年の秋から使用した茶室の炉を塞ぎ、風炉を置いて釜を掛けます。初夏の茶会にふさわしい茶道具の取合せです。



青磁浮牡丹文水指
龍泉窯
中国・元時代 13-14 世紀
根津美術館蔵

緑味のある青磁の壺で、胴に牡丹唐草文、下部に蓮の花弁を浮き彫りであらわす。日本で黒漆塗の蓋が付けられ、水指として用いられた。



竹一重切花生 銘 藤浪
小堀遠州作
日本・江戸時代 17 世紀
根津美術館蔵

竹を逆にし、割れたところを金属の錠で止めている。裏側には風で揺れる藤花を詠んだ和歌が記される。

開催概要

- 【展覧会名】 特別展「燕子花図と藤花図 一光琳、応挙 美を競うー」
- 【主催】 根津美術館
- 【開催期間】 2014年 4月19日(土)～5月18日(日)
- 【開館時間】 午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]
夜間開館：5/13(火)～18(日)は午後7時まで開館。
- 【休館日】 月曜日、ただし4/29～5/11は無休。
- 【入館料】 一般1200円(1000円) 学生1000円(800円)
*()内は20名以上の団体料金、中学生以下無料
- 【前売券】 一般1100円 学生900円
*2014年2月26日(水)～4月6日(日)「清麿 一幕末の志士を魅了した名工」展開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売
- 【アクセス】 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道)駅下車
A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベータ、またはエスカレーター)より徒歩10分
- 【住所】 〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1
- 【お問い合わせ】 TEL 03-3400-2536 (代表)
- 【ホームページ】 <http://www.nezu-muse.or.jp> (日本語・English)
<http://www.nezu-muse-app.jp> (日本語・English)
*携帯サイトは機種により閲覧できない画面があります。
「App Store」・「Google play」から根津美術館を検索してダウンロード

コレクション展

次回展のご案内



左:堆朱牡丹文盆 中国・明時代 15世紀
右:瑠璃地白花木蓮文盤 中国・清時代 18世紀 いずれも根津美術館蔵

カラフル ー皇帝の器と輸出されたうつわー

2014年 5月31日(土)～7月13日(日)

華やかさで世界を魅了した、中国・明時代から清時代までの工芸品を一堂公開。

新創開館5周年記念 特別展

今秋開催



井戸茶碗 銘古織割高台 朝鮮・朝鮮時代 16世紀 根津美術館蔵

名画を切り、名器を継ぐ ー美術にみる愛蔵のかたちー

2014年 9月20日(土)～11月3日(月・祝)

作品を改変することによって名品を伝えた、将軍や茶人たちの創造力にご注目ください。

【リリース・広報のお問い合わせ】

担当： 所、村岡、羽田 TEL:03-3400-2538 (直) FAX:03-3400-2436 MAIL:press@nezu-muse.or.jp